



YNU YOKOHAMA
National University

横浜国立大学基金 2021年度 活動報告書

YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY FUND

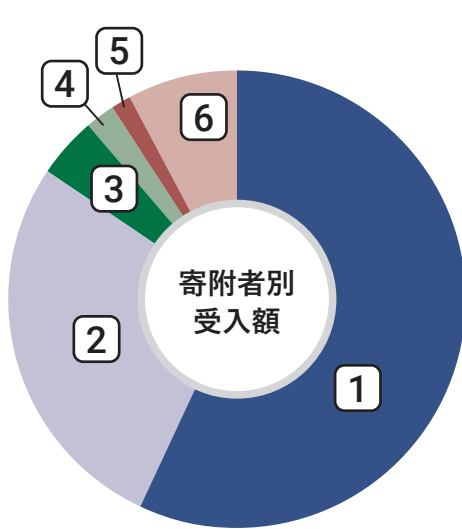
YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

ご寄附受入額

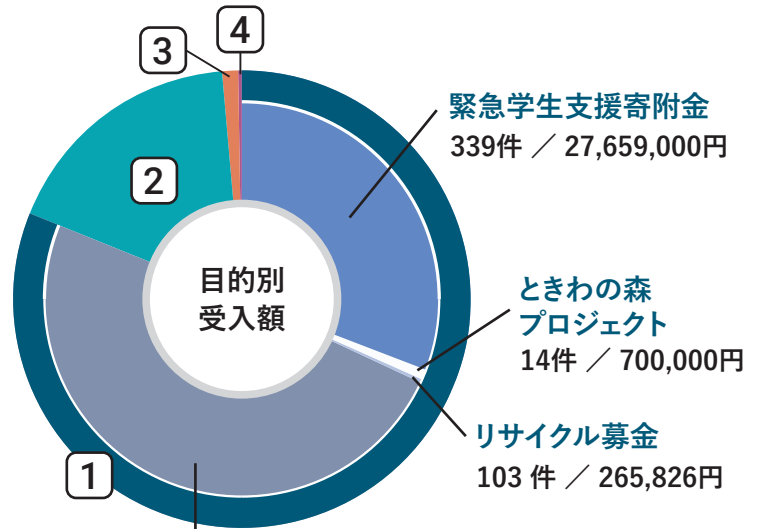
横浜国立大学基金にあたたかなご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。
皆さまから賜りましたご寄附は学生支援をはじめとする様々な事業にて有効に活用させていただいております。

寄附受入件数 **1,017** 件 / 寄附受入総額 **89,338,326** 円

※2021年4月1日～2022年3月31日



- ① 卒業生 …… 661 件 / 50,893,578 円
- ② 法人・団体 …… 25 件 / 24,765,000 円
- ③ 保護者 …… 125 件 / 3,624,108 円
- ④ 教職員 …… 73 件 / 1,989,286 円
- ⑤ 退職教職員 …… 37 件 / 1,151,052 円
- ⑥ その他 …… 96 件 / 6,915,302 円



その他、教育・研究・課外活動等へのご寄附
294件 / 43,863,000円

- ① 横浜国立大学基金 …… 750 件 / 72,487,826 円
- ② 学生修学支援基金 …… 226 件 / 15,611,500 円
- ③ 研究等支援基金 …… 27 件 / 985,000 円
- ④ 国際交流基金 …… 14 件 / 254,000 円

寄附受入額の推移（年度別）

(円)

	横浜国立大学基金	学生修学支援基金	国際交流基金	研究等支援基金	合計
2016	10,248,388	370,000	1,000,000	-	11,618,388
2017	7,110,416	15,645,000	20,000	-	22,775,416
2018	75,560,205	13,490,500	130,000	-	89,180,705
2019	29,491,412	13,761,500	51,000	-	43,303,912
2020	153,115,174	15,473,000	413,000	-	169,001,174
2021	72,487,826	15,611,500	254,000	985,000	89,338,326
合計	348,013,421	74,351,500	1,868,000	985,000	425,217,921

支出合計

皆さまから賜りましたご寄附は、教育・研究活動支援として各事業に活用させていただきます。ここでは活用事業の一部をご紹介します。

98,870,368円

※2021年4月1日～2022年3月31日

1 横浜国立大学基金
72,194,409円

2 学生修学支援基金
17,072,209円

3 国際交流基金
9,603,750円



1 横浜国立大学基金

緊急学生支援事業

2020年5月に募集を始めました「緊急学生支援寄附金」は、多くの皆さまからのご協力により、2022年3月末には8,000万円を超えるご寄附となりました。多大なご寄附と心温まる励ましのメッセージを賜り、心より御礼申し上げます。尚、「緊急学生支援寄附金」の残金につきましては「コロナ禍時代の学生応援寄附金」に引き継ぎ、学生支援に活用させていただきます。

□ 生活困窮学生への生活支援奨学金の給付

支援数

302名 × 50,000円
(2021年6月支給)

210名 × 100,000円
(2022年2月支給)

□ 日本に入学する学生への
自主隔離期間の宿泊代一部支援

支援数

16名 計800,000円

□ 新型コロナウイルス陽性者
(自宅療養者)への食糧支援

支援数

26名 計115,450円

査読付国際ジャーナル論文
投稿支援事業

研究成果の国際的発信力を一層高め、また本学の研究力強化につながるために、影響度が高い学術雑誌への論文投稿費用の一部補助として活用させていただきました。

支援数

20件 15名の
論文投稿を支援

(1件当りの投稿料
約140,000円～200,000円)

2 学生修学支援基金

経済的な理由により修学を諦めてしまう学生を出さないため、意欲と能力のある学生がより勉学・研究に集中し、安心して学生生活を送ることができるように、以下の事業に活用させていただきました。

YNU大澤奨学金

支援数

14名 × 600,000円
(継続10名+新規4名)

YNU竹井准子記念奨学金

支援数

9名 × 600,000円
(継続7名+新規2名)

鈴木建吾・八幡ねじ奨学金

支援数

3名 × 600,000円
※2021年度新設の奨学金です。

新入生スタートアップ支援金

支援数

12名 × 150,000円



3 国際交流基金

学生の海外派遣及び外国人留学生への援助や外国人研究者等の招へいなど、本学の国際交流の推進、国際的視点を持って活躍できる人材の育成支援などに活用させていただきました。

私費外国人留学生奨学金

支援数

12名 × 300,000円

交換留学派遣生奨学金

支援数

5名 × 100,000円

国際会議等出席・海外調査等奨励金

支援数

24名 計1,060,000円

(オンライン参加22名×30,000円、海外研修・調査研究2名×200,000円)



感謝のメッセージ

○ 皆さまからのご寄附を通して支援を

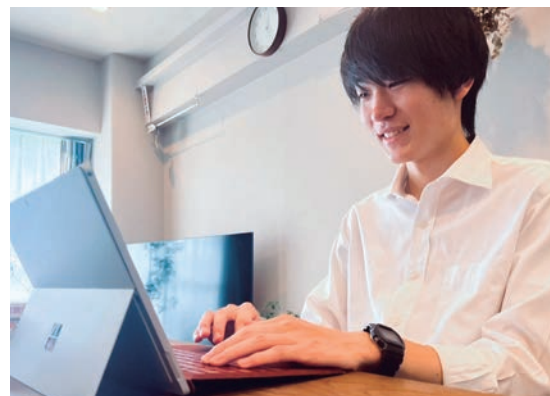
MESSAGE • YNU大澤奨学金 奨学生 | 経済学部 / 2021年度入学

世界中の人が安心して過ごすことができる環境づくりを目指して

大学1年の頃、私は大学生活のためアルバイトに明け暮れる毎日を送っていました。しかし、大澤奨学金の奨学生として採用していただいたおかげで、アルバイトの時間を削り自分のやるべきこと、やりたいことに時間を割くことが可能になりました。また英語と統計学、簿記の勉強に集中し夏休みを過ごすことができました。そして秋学期からは、待ちに待った農業経済学のゼミに参加します。農業経済学のゼミは週末に実施するため、奨学金をいただいでいなければ参加



することはできませんでした。今後は、世界全体の食料供給を安定させるにはどうしたら良いのかを研究して、世界中の人が安心して過ごせる環境づくりに寄与したいと思います。残りの在学期間を精一杯に使って成長し、徐々に世の中に自分の能力を還元できるように頑張りたいです。最後になりましたが、ご支援いただきました大澤様に深くお礼申し上げます。



MESSAGE • YNU竹井准子記念奨学金 奨学生 | 教育学部 / 2022年度入学

教育心理学を学んで教師として不登校問題に取り組みたい

YNU竹井准子記念奨学金のおかげで、これまで掛け持ちで行っていたアルバイトの負担が減り、以前よりも授業の予習や復習に時間を費やすことができるようになりました。また、留学生を支援するサークルに所属し、国際交流を通して異文化理解に努めたりと、とても充実した大学生活を送ることができるようになりました。私は教育学部に所属していますが、その中でも

とくに大学では教育心理学について学び、将来は教員として不登校問題に力を入れていきたいと考えています。今後も、奨学生であることの自覚と感謝の気持ちを忘れずに、より一層勉学に励み、未来の教育に貢献できるような人材を目指していきます。最後に、竹井准子様をはじめ、奨学金を実現してくださったご遺族の皆さまに心から感謝申し上げます。



緊急生活支援奨学金 受給学生からの感謝の声

都市科学部 4年

私たちのために沢山のご支援ありがとうございます。一人暮らしで心細く不安が多い中、このようなご支援をいただけることで生活だけでなく心の支えになります。心から感謝しています。

理工学部 2年

入国禁止措置により1年間国外で授業を受け、3月に入国することになった留学生です。隔離費用が高く日本生活が最初から手ごわいと思いましたが、皆さんの支援のおかげでうまく生活を開始することができました。本当にありがとうございました。

教育学部 4年

支援金を寄附していただいたことはもちろん、皆さまからの温かいメッセージにとっても元気づけられました。必ず生活の役に立てます。本当にありがとうございました。

経済学部 4年

卒業生の先輩方、保護者の方々、ならびに地域の皆さま、コロナ禍で皆さまも大変な思いをしながらご支援いただき誠にありがとうございます。いただいた奨学金は生活のために大切にさせていただきます。

経営学部 4年

ご寄附ご協力くださりありがとうございます。とても困窮していたところだったので、大変ありがたいです。今後も学業に励み、いつか皆さまに恩返しできるように頑張ります。

受けた学生と研究者のチャレンジを、感謝のメッセージと共にお伝えします。

MESSAGE • 交換留学派遣生 | 都市科学部 / 2019年度入学



言語の壁を越え、共にプロジェクトに取り組んだかけがえのない経験



ドイツで1年間交換留学をするにあたっては、環境先進国のドイツで専攻の建築を学びたい、EUの内部で生活してみたい、色々な国の人とかわり、そのうえでドイツ語・英語力も上げたいという主な動機がありました。留学中は言語面

の壁に加えて周りの学生と同じプロジェクトに

取り組むため、不足する知識や技術を補う必要があり大変でもありましたが、周りの助けを借りながら成し遂げるかけがえのない経験を得ることができました。

長期休みを利用したヨーロッパ内の渡行では、建築や自然を見たり現地の人の話を聞くなど濃密で貴重な時間を過ごすことができました。渡行のためには日々の生活費や学業にかかるお金に加えての出費が必要でしたが、奨学金の存在はこれらすべての出費をやりくりするのに非常に助けとなりました。

私の留学を支えてくださった寄附者の皆さまと日本の家族、留学中にお世話になったすべての方々へ感謝致します。

INTERVIEW

研究者インタビュー / 菊本 統 KIKUMOTO Mamoru 都市イノベーション研究院 教授

国際交流基金を活用した事業について教えてください。

外国人研究者等招へい事業として2019年12月に英国・ダンディー大学の Matteo Ciantia 講師を招へいし、共同研究を行いました。招へい中は研究セミナーでの講演や、院生達と積極的に交流して目からウロコが落ちるようなアドバイスをくれるなど、相互理解も深まり非常に有意義な期間になりました。また期間中は毎日、Matteoさんと私は自宅で夕食を共にし、家族ぐるみの付き合いとなりました。

招へい後はどのような交流がありますか？

招へい後はコロナ禍で直接の行き来が難しくなりましたが、2週間に一度のペースでオンライン研究ミーティングを継続しています。ときおり冗談や家族の近況報告も交え、時にはひざもとに子供を抱きかかえながら、日英双方の同僚や院生も交えて様々なテーマについて相談し研究を進めています。招へいの翌年からはMatteoさんと私で申請した英国 Royal Society の研究助成に採択され、国際共同研究がより活発になりました。また2020年9月にはダンディー大学に10日間渡航し、共同研究を行いました。

寄附者の皆さまへのメッセージをお願いします。

オンライン会議の普及によりコミュニケーションはより手軽に、より活発になりましたが、意義ある成果をあげるためには侃々諤々の研究討議も必要です。そのためにはお互い気心がしれた研究仲間であるという信頼関係が大事です。信頼関係を築くには直接、顔をあわせてのコミュニケーションも重要で、国際交流基金の招へい事業はその機会を提供してくれる仕組みだと思います。そのような貴重な機会を与えてくださった寄附者の皆さまに感謝しつつ、今後もこのような機会が本学研究者に提供され続けることを切に願っています。



2022年3月のオンライン会議の様子
写真左上：Matteo Ciantia 講師
右上：菊本教授



共同研究で実施している粒状材料の力学試験の様子
写真：本学博士後期1年 Ali Ushman さん

1 横浜国立大学基金 ウェブサイトリニューアル



「横浜国立大学基金ウェブサイト」を、より使いやすい構成とデザインをコンセプトに、全面的にリニューアル致しました。今回のリニューアルでは支援目的別にプロジェクトページを立ち上げ、進行状況をご確認いただけるように致しました。プロジェクトは最新情報を随時更新してまいりますので、是非ご覧ください。



ウェブサイトはこちらから
ご覧いただけます



2 横浜国立大学創基150周年・ 開学75周年記念募金事業を はじめます

横浜国立大学の起源は明治7（1874）年に神奈川県内に設置された小学校教員養成所に遡り、令和6（2024）年には創基150年・開学75年を迎えます。この重要な節目を迎えるにあたり、様々な事業や大学を挙げて50年先の未来を創るために、皆さまからのご寄附を募集する予定です。
ご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



横浜国立大学 創基150周年

150周年事業の
ロゴが決定しました！

大学150年の沿革、また学生自身の未来に向けた「国際社会での羅針盤たれ」という想いを込めて、大海に漕ぎ出す船の羅針盤をイメージしてデザインしました。



ご寄附のしかた



クレジットカード



インターネットからクレジットカード決済によりご寄附いただけます。
継続的なご寄附（毎月・年2回・年1回の自動引き落とし）もお申込みいただけます。

※12月16日以降にお申込みいただいたクレジットカードによるご寄附の領収書は、翌年の日付で発行されます。この場合、寄附金控除も翌年の対象となりますのであらかじめご了承ください。



金融機関

振り込み

別添の払込取扱票に必要事項をご記入の上、**郵便局**または**横浜銀行**・**三菱UFJ銀行**の窓口でお振り込みください。

口座振替

年に2回（1月6日、7月6日）のうちお好きな日にちを選んでいただき、口座振替によりご寄附いただくことができます。ご希望の方は卒業生・基金室までご連絡ください。



株式・土地など

現金以外にも、個人の方からの「土地、建物等の不動産」、「株式等の有価証券」など現物資産によるご寄附も受け付けております。

本学では横浜国立大学基金の特定資金として、文部科学大臣の証明を受けた「横浜国立大学現物資産活用基金」を設置しており、ご寄附いただいた資産は、当該基金において有効に活用させていただきます。現物資産によるご寄附をご検討の方は、お気軽にご相談ください。



リサイクル募金



本・DVD・ゲーム・書き損じはがき等のリサイクル品を活用することで、横浜国立大学の教育・研究を支援するプロジェクトです。



≡ 遺贈・相続によるご寄附 ≡

ご自分が築き上げた財産の一部を横浜国立大学に寄附することで、母校の発展や後輩達の育成を支援し社会に貢献することができます。

お話を伺いながらご意志に沿った支援内容のご相談、提携銀行のご紹介をさせていただきますので、ご不明な点や気になる事などがございましたら是非お気軽にご相談ください。

本学と協定を結んでいる銀行・信託銀行 | 三井住友信託銀行 / 三菱UFJ信託銀行 / リそな銀行



税制上の優遇措置

個人の皆さま

所得税の控除

横浜国立大学基金へのご寄附は、**所得控除**の対象となります。

また、本学の「**学生修学支援基金**」及び「**研究等支援基金**」に対するご寄附は、確定申告の際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

所得控除

寄附金額から2,000円を差し引いた額が総所得から控除されます。

税額控除

寄附金額から2,000円を差し引いた額の40%が税額から控除されます。

住民税の控除

お住まいの都道府県・市町村によっては、個人住民税の控除が受けられます。

詳しくは、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせ願います。

法人・団体の皆さま

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。



ご寄附いただいた方への謝意

横浜国立大学基金へご寄附いただいた皆さまに感謝の気持ちを込め、ご寄附いただいた金額によって様々な謝意を用意しております。

高額寄附者銘板



記念楯



感謝状



高額寄附者銘板※1※2	個人	法人・団体
銘板(ゴールド)の掲示	1億円以上	1億円以上
銘板(シルバー)の掲示	1,000万円以上	5,000万円以上
銘板(グレー)の掲示	100万円以上	1,000万円以上

謝意	個人	法人・団体
記念楯の贈呈※1※2	500万円以上	1,000万円以上
感謝状の贈呈※2	30万円以上	100万円以上
附属図書館利用カード	10万円以上	-
YNUオリジナルグッズ	1万円以上	-

※1 横浜国立大学 高額寄附者銘板への掲示及び記念楯の贈呈は、本学へのご寄附累計金額が該当金額に達し次第ご案内致します。

※2 原則として一個人、一法人・団体につき1回までの贈呈と致します。

YNUオリジナルグッズ一例



NEW!

YNU
ジップパーカー
ネイビー
(M・L・XL)

皆さまお一人お一人のご寄附が
次世代の学びと挑戦を支え、地域と世界の未来をつくります。
引き続きあたたかなご支援を、よろしくお願い致します。

